

1面のコラム「^{しゃめん}斜面」を読もう

斜面

2021.10.16

形式にとらわれて融通が利かないことを「杓子定規」という。杓子とは丸い小皿のような頭に柄をつけ、汁などをすくう道具。丸くて曲がっている杓子は真つすな定規のように使えない。物事を不適切な基準で測るとの意味もある◆杓子を定規にしていたのは米国に本部がある世界銀行だ。2017年に発表したビジネス環境の国別順位で、上層部が担当者に不当な圧力をかけて中国の順位を引き上げていたという。企業進出の判断に関わる重要な指標だ。9月に公表して、大騒ぎに◆前年78位の中国は強い不満を世銀に訴えていた。ところがこの年も、上がるどころか85位に下がる結果に。上層部は発表間際に見直しを指示して、前年と同じ78位を維持させた。世銀は加盟国から出資金を集めている。中国との増資交渉をまとめるため、手心を加えたとみられる◆世銀が出す統計や報告書は公正な「定規」だと思われてきた。大国の意向で融通を利かすなら、不平等が世界に広がるばかりだ。上層部の一人は国際通貨基金（IMF）の今の専務理事。辞任は免れたが、IMFと並ぶ国際金融組織の信頼は地に落ちた◆日常生活もいろいろなランキングであふれている。好感度や売れ筋、人気…。程度の差こそあれ消費や投資に連動する「定規」となる。実は誰かがカネをすくうのに便利な「杓子」かもしれない。ランキング信用度ランキングが乱立したりして。悲しい冗談を思い付く不信の時代を憂う。

斜面

2021.10.20

人が行き交う駅前には白い防護服のようなものを着た男性が現れ、メガホンのスイッチを入れた。「私も候補者の一人ですが、私に入れてください」という話はしません」。想田和弘監督の映画「選挙2」（2013年）のラストシーンだ◆舞台は東日本大震災の翌月にあった川崎市議選。男性は想田さんの大学の同級生、通称「山さん」だ。前の作品「選挙」で政治家素人の山さんは市議補選の自民党候補となって当選。次の選挙は出ず、5年半後に撮った「2」では無所属で脱原発を訴えた◆映画は台本もナレーションも字幕も音楽もない。回し続けたカメラの映像を観客がそれぞれ感じ取る「観察映画」という独自の表現だ。頭を下げて名前を連呼した政党の組織戦も、ドンキホーテのような個人の戦いも、同じ映像が印象に残る。無表情に通る過ぎる有権者らの姿だ◆「政治は分かりにくい。もっとハードルを下げてほしい」。映画を見た若者の声を聞いて想田さんは「これは消費者の態度だ」と思った。要求していいが、理解する努力を求められるとは考えない。主権者こそ政治の主体であり、責任を担うはずなのに◆山さんが駅前で訴えたのは投票による政治参加だ。「皆さんも一緒に選挙から政治を変えてゆくんです」「どうか選挙にだけは行ってください。そこが民主主義の始まりです」。涙声のようにも聞こえた。きのう公示された総選挙。有権者が責任を果たせば民主政治は本来の力を取り戻す。

しゃめん
1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 10. 20

ひとがいきかうえ
きまえにしろいぼ
うごふくのような
ものをきただんせ
いがあらわれ、メガホンの
スイッチをいれた。「わた
しもこうほしやのひとりで
すが、わたしに連れてくだ
さいというはなしはしませ
ん」。想田和弘かんとく
えいが「選挙2」（201
3ねん）のラストシーンだ
◆ぶたいはひがしにほんだ
いしんさいのよくげつにあっ
たかわさきしぎせん。だん
せいは想田さんのだいがく
のどうきゆうせい、つうしょ
う「山さん」だ。まえのさ
くひん「選挙」でせいじし
ろうとの山さんはしぎほせ
んのじみんとうこうほとなっ
てとうせん。つぎのせんきよ
はず、5ねんはんごにとっ
た「2」ではむしょぞくで
だつげんぱつをうったえた
◆えいがはだいほんもナレ
ションもじまくもおんがく
もない。まわしつづけたカ
メラのえいぞうをかんきや
くがそれぞれかんじとる
「かんさつえいが」という
どくじのひょうげんだ。あ
たまをさげてなまえをれん

こしたせいとうのそしきせ
んも、ドンキホーテのよう
なこじんのたたかいも、お
なじえいぞうがいんしょう
にのこる。おひょうじょう
にとおりすぎるゆうけんしゃ
らのすがただ◆「せいじは
わかりにくい。もつとハー
ドルをさげてほしい」。え
いがをみたわかものこのえ
をきいて想田さんは「これ
はしようひしやのたいどだ」
とおもった。ようきゆうし
ていいが、りかいするどりよ
くをもとめられるとはかん
がえない。しゅけんしゃこ
そせいじのしゅたいであり、
せきにんをになうはずなの
に◆山さんがえきまえでうっ
たえたのはとうひょうによ
るせいじさんかだ。「みな
さんもいっしょにせんきよ
からせいじをかえてゆくん
です」「どうかせんきよに
だけはいつてください。そ
こがみんしゅしゅぎのはじ
まりです」。なみだごえの
ようにもきこえた。きのう
こうじされたそうせんきよ。
ゆうけんしゃがせきにんを
はたせばみんしゅせいじは
ほんらいのちからをとりも
どす。

1面のコラム「斜面」を読もう

斜面

2021.10.16

形式にとらわれて融通が利かないことを「杓子定規」という。杓子とは丸い小皿のような頭に柄をつけ、汁などをすくう道具。丸くて曲がっている杓子は真つすな定規のように使えない。物事を不適切な基準で測るとの意味もある◆杓子を定規にしていたのは米国に本部がある世界銀行だ。2017年に発表したビジネス環境の国別順位で、上層部が担当者に不当な圧力をかけて中国の順位を引き上げていたという。企業進出の判断に関わる重要な指標だ。9月に公表して、大騒ぎに◆前年78位の中国は強い不満を世銀に訴えていた。ところがこの年も、上がるどころか85位に下がる結果に。上層部は発表間際に見直しを指示して、前年と同じ78位を維持させた。世銀は加盟国から出資金を集めている。中国との増資交渉をまとめるため、手心を加えたとみられる◆世銀が出す統計や報告書は公正な「定規」だと思われてきた。大国の意向で融通を利かすなら、不平等が世界に広がるばかりだ。上層部の一人は国際通貨基金(IMF)の今の専務理事。辞任は免れたが、IMFと並ぶ国際金融組織の信頼は地に落ちた◆日常生活もいろいろなランキングであふれている。好感度や売れ筋、人気…。程度の差こそあれ消費や投資に連動する「定規」となる。実は誰かがカネをすくうのに便利な「杓子」かもしれない。「ランキング信用度ランキング」が乱立したりして。悲しい冗談を思い付く不信の時代を憂う。

斜面

2021.10.20

人が行き交う駅前には白い防護服のようなものを着た男性が現れ、メガホンのスイッチを入れた。「私も候補者の一人ですが、私に入れてくださいという話はしません」。想田和弘監督の映画「選挙2」(2013年)のラストシーンだ◆舞台は東日本大震災の翌月にあった川崎市議選。男性は想田さんの大学の同級生、通称「山さん」だ。前の作品「選挙」で政治家素人の山さんは市議補選の自民党候補となって当選。次の選挙は出ず、5年半後に撮った「2」では無所属で脱原発を訴えた◆映画は台本もナレーションも字幕も音楽もない。回し続けたカメラの映像を観客がそれぞれ感じ取る「観察映画」という独自の表現だ。頭を下げて名前を連呼した政党の組織戦も、ドンキホーテのような個人の戦いも、同じ映像が印象に残る。無表情に通る過ぎる有権者らの姿だ◆「政治は分かりにくい。もっとハードルを下げてほしい」。映画を見た若者の声を聞いて想田さんは「これは消費者の態度だ」と思った。要求しているが、理解する努力を求められるとは考えない。主権者こそ政治の主体であり、責任を担うはずなのに◆山さんが駅前で訴えたのは投票による政治参加だ。「皆さんも一緒に選挙から政治を変えてゆくんです」「どうか選挙にだけは行ってください。そこが民主主義の始まりです」。涙声のようにも聞こえた。きのう公示された総選挙。有権者が責任を果たせば民主政治は本来の力を取り戻す。

1面のコラム「斜面」を読もう

ひらがなを漢字になおして書きましょう。

斜面

2021. 10. 20

ひとがいきかうえ
きまえにしろいぼ
うごふくのような
ものをきただんせ
いがあらわれ、メガホンの
スイッチをいれた。「わた
しもこうほしゃのひとりで
すが、わたしにいられてくだ
さいというはなしはしませ
ん」。想田和弘さんとく
えいが「選挙2」(201
3ねん)のラストシーンだ
◆ぶたいはひがしにほんだ
いしんさいのよくげつにあっ
たかわさきしぎせん。だん
せいは想田さんのだいがく
のどうきゅうせい、つうしょ
う「山さん」だ。まえのさ
くひん「選挙」でせいじし
ろうとの山さんはしぎほせ
んのじみんとうこうほとなっ
てとうせん。つぎのせんきよ
はず、5ねんはんごにとっ
た「2」ではむしょぞくで
だつげんぱつをうったえた
◆えいがはだいほんもナレ
ションもじまくもおんがく
もない。まわしつづけたカ
メラのえいぞうをかんきや
くがそれぞれかんじとる
「かんさつえいが」という
どくじのひょうげんだ。あ
たまをさげてなまえをれん

こしたせいとうのそしきせ
んも、ドンキホーテのよう
なこじんのたたかいも、お
なじえいぞうがいんしょう
にのこる。おひょうじょう
にとおりすぎるゆうけんしゃ
らのすがただ◆「せいじは
わかりにくい。もつとハー
ドルをさげてほしい」。え
いがをみたわかものこのえ
をきいて想田さんは「これ
はしようひしゃのたいどだ」
とおもった。ようきゅうし
ていいが、りかいするどりよ
くをもとめられるとはかん
がえない。しゅけんしゃこ
そせいじのしゅたいであり、
せきにんをになうはずなの
に◆山さんがえきまえでうっ
たえたのはとうひょうによ
るせいじさんかだ。「みな
さんもいっしょにせんきよ
からせいじをかえてゆくん
です」「どうかせんきよに
だけはいつってください。そ
こがみんしゅしゅぎのはじ
まりです」。なみだごえの
ようにもきこえた。きのう
こうじされたそうせんきよ。
ゆうけんしゃがせきにんを
はたせばみんしゅせいじは
ほんらいのちからをとりも
どす。

固有名詞などの漢字は原文のままです。

コラム「斜面」を読んで考えを深めよう

斜面

2021.10.16

形式にとらわれて融通が利かないことを「杓子定規」という。杓子とは丸い小皿のような頭に柄をつけ、汁などをすくう道具。丸くて曲がっている杓子は真つすな定規のように使えない。物事を不適切な基準で測るとの意味もある◆杓子を定規にしていたのは米国に本部がある世界銀行だ。2017年に発表したビジネス環境の国別順位で、上層部が担当者に不当な圧力をかけて中国の順位を引き上げていたという。企業進出の判断に関わる重要な指標だ。9月に公表して、大騒ぎに◆前年78位の中国は強い不満を世銀に訴えていた。ところがこの年も、上がるどころか85位に下がる結果に。上層部は発表間際に見直しを指示して、前年と同じ78位を維持させた。世銀は加盟国から出資金を集めている。中国との増資交渉をまとめるため、手心を加えたとみられる◆世銀が出す統計や報告書は公正な「定規」だと思われてきた。大国の意向で融通を利かすなら、不平等が世界に広がるばかりだ。上層部の一人は国際通貨基金(IMF)の今の専務理事。辞任は免れたが、IMFと並ぶ国際金融組織の信頼は地に落ちた◆日常生活もいろいろなランキングであふれている。好感度や売れ筋、人気…。程度の差こそあれ消費や投資に連動する「定規」となる。実は誰かが力ネをすくうのに便利な「杓子」かもしれない。 「ランキング信用度ランキング」が乱立したりして。悲しい冗談を思い付く不信の時代を憂う。

① コラム「斜面」を読んで、筆者が言いたいことを簡潔に書きましよう。

② 【意見提示】 「斜面」の内容に対するあなたの意見を書きましよう。

③ 【展開】 あなたの意見の根拠を三つ書きましよう。

()

()

()

伝えたい順番